

多摩在住400万人の都立多摩図書館の移転のなかで考える

共同保存図書館・多摩 三年間の歩み

共同保存図書館・多摩は発足して4年目を迎えている。誕生とその後経過と現在、何が課題か、報告していただいた。

さま・なおよし●特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩理事長

座間直壯

誕生から4年目を迎えたNPO共同保存図書館・多摩（以下「多摩デポ」）のこれまでの道のりを振り返り、改めて共同保存図書館の意味と今日的課題を考えていきたい。

本誌2008年6月上旬号で誕生の経過について紹介させていただいた。今回はその後の経過について、誕生にあたってご支援・ご協力をいただいた多くの方々への経過報告を兼ねて「多摩デポ」の3年間のあゆみとして紹介する。

そもそも共同保存図書館とは、設置主体を異にする複数の図書館が、それぞれで所蔵が困難になった資料を一ヶ所に集め、共同で保存する仕組み。書誌・所蔵情報の管理と提供

を行い、物流システムを保障して、各図書館の求めに応じて利用者が必要とする資料を貸し出す保存センター。「多摩デポ」ホームページより）と定義づけている。「多摩デポ」のデポとは、デポジット・ライブラリー（保存図書館 deposit library）の略。

当初、街の図書館は予算規模の問題もあり、資料の保存に関してあまり力点を置くことが出来ず、購入した資料を利用に供するための保存程度のものと考えていた。しかし、図書館が歴史を重ねていくと蔵書は増え、やがて収容能力の限界を超えて図書館から溢れてしまう。溢れた資料も図書館の貴重な蔵書であり利用

を求める人もいる。そのため、何らかの工夫をしてそれらの蔵書を持ちこたえているのが現状である。多摩地域の図書館は、東京都の図書館振興政策を受けて1970年代から急激に増え始め、瞬く間に多くの自治体が図書館を設置した。当時設置された図書館は、現在の状況と比較すると規模も小さく、開架スペースを確保することが精一杯といったところで、保存スペースの確保まではとても及ぶものではなかった。

現在は、図書館機能も当時の貸出を中心にした資料提供サービスに加えて、図書館に資料や情報など様々な相談が寄せられ、市民生活の中に図書館がしっかりと根付いてきてい

ということを学習会などの機会を通じて学習すると同時に、多くの人々に理解と協力をいただくという狙いから、多摩デポの主要事業として「多摩デポ講座」を定期的に開催（3年間で10回）し、多くの方の参加をいただいた。講座の内容は次のとおりである。

▽第1回多摩デポ講座
開催日…2008年9月14日(日)
テーマ…「地域資料の収集と保存」
「たまたま」地域文化財団歴史資料室の場合」
講師…保坂一房氏（財）たまたま地域文化財団歴史資料室室長
会場…たまたま国立支店

▽第2回多摩デポ講座
開催日…2008年10月5日(日)
テーマ…「昔の地図を編集し、土地の歴史を読む」
「国分寺市のことを一例としながら」
講師…芳賀啓氏（出版社 徂之潮 Collegeio 代表）
会場…国分寺労働会館

▽第3回多摩デポ講座
開催日…2008年12月14日(日)
テーマ…「多摩地域における共同利用図書館検討調査報告書」を説

講師…木村 稔氏（東村山市立図書館長）
会場…立川市中央図書館
▽第4回多摩デポ講座
開催日…2009年3月1日(日)
テーマ…「公共図書館・地域資料
供覧の空気く全国の図書館を訪ねながらの感想と希望」
講師…平山惠三氏（多摩デポ副理事長）
会場…国分寺労働会館
▽第5回多摩デポ講座
開催日…2009年8月15日(土)
テーマ…見学会（大倉山記念館大倉精神文化研究所附属図書館）
講師…図書館職員
会場…大倉山精神文化研究所附属図書館
▽第6回多摩デポ講座
開催日…2009年10月18日(日)
テーマ…「小平市から発信する」
地域資料サービスと資料保存」
講師…蛭田廣一氏（小平市企画政策部参事市史編纂、前小平市立図書館長）
会場…調布市市民プラザあくろす
▽第7回多摩デポ講座
開催日…2010年3月12日(金)

講師…清田義昭氏（出版ニュース社代表、多摩デポ理事）
会場…国分寺労働会館
▽第8回多摩デポ講座
開催日…2010年7月9日(金)
テーマ…「元アサヒタウンズ記者が語る 多摩を歩いて37年半」
街・人・暮らし、そして図書館」
講師…山田優子氏（元アサヒタウンズ記者）
会場…国分寺労働会館
▽第9回多摩デポ講座
開催日…2010年10月23日(土)
テーマ…見学会（大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館）
講師…青木 睦氏（准教授）
会場…国文学研究資料館
▽第10回多摩デポ講座
開催日…2010年12月12日(日)
テーマ…「多摩地域における共同利用図書館検討調査報告書」を読みなおす共同保存（利用）図書館実現への道筋を考える」
講師…清水啓文氏（立川市図書館長）

この多摩デポ講座以外にも、定期総会開催時に記念講演会を開催し、我々の活動に深く関わりのある方々をお招きして大変有意義なお話をいただいている。これまでにお招きした方々は、
▽第1回 2008年5月25日(日)
テーマ 「公共図書館と協力保存」
利用を継続して保証するために

講師 安江明夫氏（元国立国会図書館副館長）
▽第2回 2009年5月29日(日)
テーマ 「図書館の役割と資料保存」
講師 梅澤幸平氏（元滋賀県立図書館長）
▽第3回 2010年5月30日(日)
テーマ 「図書館のこと、保存のこと」
図書館の歩む道」
講師 竹内 愼氏（図書館情報大学名誉教授、前日本図書館協会理事長）
▽第4回 2011年5月29日(日)
テーマ 「図書館の電子化と無料原則」

会場…立川市女性総合センター
イム

講師 津野海太郎氏（和光大学名誉教授、多摩デポ理事）

以上の方々が、我々の多摩デポのためにご講演を快く引き受けていただき、文字どおり手弁当で駆けつけていただいた。昨年までの方々のお話は次に紹介する多摩デポブックレットとして収められている。

「多摩デポブックレット」の発行

このような貴重な内容を多摩デポの財産として残していくと同時に、多くの人たちに伝えていくにはどのような方法があるかということのみならず議論し、ブックレットの発行に踏み切った。講演の記録のテープ起こしからはじめ、講師との校正を何度か繰り返し、印刷してくれるところとの交渉を行い、予算のやりくりなどをスタッフ全員で考えた。

ブックレットの内容は多摩デポ講座だけではなく、多摩デポの通常総会において記念講演会を開催しており、その内容についてもブックレットとして加えてきた。これまでに5冊のブックレットを刊行してきた。

自画自賛の向きもあるが、第1号から読んでみると資料保存の意味が根

底に流れ、一貫した太い幹が中心を貫いているように思える。第1号から紹介すると以下のとおりである。

▽第1号 『公共図書館と協力保存』
— 利用を継続して保証するために — 安江明夫著 2009年5月刊 52P 定価600円（税別）

▽第2号 『地域資料の収集と保存』
— たましん地域文化財団歴史資料室の場合 — 保坂一房著 2009年9月刊 56P 定価600円（税別）

▽第3号 『地図・場所・記憶— 地域資料としての地図をめぐる —』
— 芳賀啓著 2010年5月刊 54P 定価600円（税別）

▽第4号 『現在に生きる地域資料— 利用する側・提供する側 —』
— 山恵三、蛭田廣一著 2010年11月刊 56P 定価600円（税別）

▽第5号 『図書館のこと、保存のこと』
— 竹内愨、梅澤幸平著 2011年5月刊 62P 定価700円（税別）

（購入方法は文末をご参照ください。）
これらは会員には無料で配布し、講座や講演会に参加できなくても会

員相互の理解を深める意味でも、有効な情報源になっていいると思われる。また、会員以外の方々にも広く普及させていきたいと考え、印刷をお願いしている「けやき出版」を通じての購入も可能にしている。

地道な図書館支援活動

共同保存図書館をイメージした図書の共有化の第一歩として、図書館の図書を除籍する際の補助（多摩地域全体で残り2冊以内の図書を探す）作業を支援してきた。

この作業は我々としても、どの程度の作業でどの様なノウハウが必要なのかを調査し、他の図書館で行なう際の参考となる作業マニュアルを作成する意味もあった。

協力依頼があった図書館と具体的な事務手続きの打合せを行い、図書館側から除籍予定の図書リストをいただき、あらかじめ希望を募っていたボランティアさんにリストを配布し、それぞれ受持ち分野の範囲を決め、当該図書が多摩地域のどの図書館で所蔵しているかを「東京都公立図書館横断検索システム」を使ってチェックする作業を行う。この作業

は自宅にパソコンでネット環境があれば誰でも参加できる作業なので多くの方の協力が得られている。

そして、最後の2冊あるいは1冊しかない図書については、除籍を保留にして当面その図書館の蔵書として扱ってもらう。このことで多摩地域の所蔵資料の幅が広がっていくことになる。以前は相互の連携がないままに除籍が進められ、気が付けばどこにも残っていないという何ともお粗末な結果が繰り返し生まれていた。そのためそれぞれの図書館がかなりの部分を重複して所蔵し、限られた保存スペースを圧迫していた。この検索作業により、その図書館においてより必要な蔵書を所蔵するスペースを確保することが出来る

と考えている。

これまでに2つの図書館の除籍作業を支援し、今年はそのノウハウをマニュアル化し、多くの図書館で実践してもらえよう東京都市町村図書館長協議会を通じて働きかけていく予定である。

横断検索作業に参加したボランティアさんからの感想の一部を紹介する。

（略）ほんの十年ほど前に出版

された本の中に本市のみ、あるいは本市と他の自治体にしか残っていない資料が多くあることを知り、とても驚きました。私が担当したのは会計や会社経営に関する図書でしたが、こうした分野の図書も時間が経てば、当時の時代背景や状況を知るための貴重な資料になります。この現状を目の当たりにして、改めて資料保存の重要性を感じました。(略)(多摩デポ通信第18号より)

●会員との絆「多摩デポ通信」の定期刊行

多摩デポ通信は2007年1月に第1号が発刊された。これは多摩デポが法人化する前で、任意団体の段階から共同保存図書館の趣旨に賛同いただいていた方々との「絆」として発刊を決め、以後途絶えることなく年4回のペースで継続して刊行を続け、最新の第18号は5月に刊行し、会員その他関係機関に届けられている。

その内容は多岐にわたり、多摩デポの諸活動の経緯や今後の事業予定は勿論のことだが、図書館の資料保

存に要する記事や出来事、会員や会員以外の方々からの投稿なども掲載している。今後も「資料保存」をキーワードに様々な方々の交流の広場として活用していただければと考えている。

●その他の諸活動

多摩デポ本来の共同保存図書館設立への道のりはまだ彼方ではあるが、それに一歩ずつでも近づけるために様々な活動を行なっている。その一つが「図書の里親探し」である。ある図書館で不要となる全集ものの情報を寄せてもらい、未所蔵の図書館を探し出して紹介する仕事である。これは全集の欠本分の補充などにも活用できるよう配慮しているため、歴史の比較的新しい図書館のみならず、歴史を重ねてきている図書館でも大変喜ばれている。昨年は人手の問題もあり機能していなかったが本年度は、再度力を入れて取り組んでいきたいと考えている。

今回の東日本大震災で大きな被害を受けた図書館などにも対象範囲を拡大して取り組みの強化を図り、(社)日本図書館協会を通じて進め

ていくことも予定している。また、多摩地域で独自に行なわれている多摩地域図書館大会(主催…東京都町村図書館長協議会)にも積極的に参加し、様々な場面で協力させていきたい。

更に、図書館総合展におけるポスターセッションに参加したり様々なメディアに対しての情報発信などもあらゆる機会を通して行なってきた。

東日本大震災の被災図書館に対しての支援についても「多摩デポ震災復興支援プロジェクト」を立ち上げたいと考え、どのような支援・協力が出来るか日本図書館協会を通じて取り組みをすすめ、一日も早い復興を願うその地域の人々が求めている本を一冊でも多くお届けしたいと考えている。

同時に大きな災害が発生したときの図書館相互の連携や情報発信拠点としての機能の確保、資料保存に対する様々な知識・技能の蓄積など様々なこれらの課題について取り組んでいきたい。

多摩デポの今後の課題としては、先ごろ公表された都立多摩図書館の移転について、都立図書館としての

今後の方向性を見極めながら、400万人が生活している多摩地域の都立図書館としてその機能を十分発揮できるような施設を求めていきたいと考えている。その中で資料保存の問題を議論し、将来の都立図書館の本来のあるべき姿を求めていく。

今後も多くの方々のご支援・ご協力、あるいはご意見をいただきながら一歩一歩着実に歩みを進めていきたいと考えている。多摩デポ3年間のあゆみを振り返る中で新たな思いを書かせていただいたが、今後も講座開催や出版活動などを継続的に進め、図書館資料の共同保存構想実現に向けて引き続き努力し、求める読者がいる限りその本を読者に届けられる仕組みづくりに取り組んでいきたい。

多摩デポ入会方法
多摩デポホームページ <http://www.tamadepo.org/> をご覧ください。
ブックレットの購入方法
Eメールで depo_tama@yahoo.co.jp からお申込みください。